

農林水産商工常任委員会提出資料

(令和6年11月29日)

| 項 目 | ページ |
|---|-----|
| ■ 「とっとり農業人フェア」の開催について 【経営支援課】…………… | 2 |
| ■ 主要農作物の生産販売状況について 【生産振興課】…………… | 3 |
| ■ 第15回中海会議の開催結果について 【農地・水保全課、水産振興課】…………… | 5 |
| ■ 国内における高病原性鳥インフルエンザの発生状況と本県の対策について 【家畜防疫課】…………… | 6 |
| ■ 第21回さかいみなと漁港・市場活性化協議会の開催結果について 【境港水産事務所】…………… | 7 |
| ■ 「爛碗グランプリ 2024 in とっとり」の初開催について 【販路拡大・輸出促進課】…………… | 8 |
| ■ 鳥取県産品の情報発信に係る取組について 【販路拡大・輸出促進課】…………… | 9 |
| ■ 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について 【農地・水保全課】…………… | 10 |

農 林 水 産 部

「とっとり農業人フェア」の開催について

令和6年11月29日

経営支援課

鳥取県農業経営・就農支援センター※（以下、「県支援センター」）では、JAグループ等と協力して11月2日（土）に第2回合同就農相談会「とっとり農業人フェア」を開催しましたので報告します。

※令和4年度に、経営支援課を総合窓口、農業改良普及所を地域窓口とし、就農相談から経営発展までを一元的に支援する鳥取県農業経営・就農支援センターを設置しています。

【第2回「とっとり農業人フェア」の開催概要】

1 日時及び場所

日 時：令和6年11月2日（土）午前10時から午後3時まで

場 所：エスパック未来中心 アトリウム、セミナールーム3（倉吉市駄経寺町）

2 内容

(1) 相談ブースの設置：27ブース（就農全般2、産地・市町村23、雇用就農1、移住定住1）

| | |
|--------|---|
| 就農全般 | 県支援センター、鳥取県立農業大学校 |
| 産地・市町村 | 東部：鳥取市、八頭郡3町合同 中部：JA鳥取中央（倉吉梨生産部、倉吉西瓜生産部、倉吉メロン生産部、倉吉・関金白葱生産部、北条ぶどう生産部、長芋生産部、大栄西瓜組合協議会、大栄花き部会、琴浦ブロッコリー生産部、琴浦ミニトマト生産部、琴浦梨生産部）、湯梨浜町 西部：JA鳥取西部（ブロッコリー部会、大山果実部、梨若丸）、米子市、南部町、江府町、日南トマト生産部・日南町産業振興センター合同 広域：鳥取県芝生産指導者連絡協議会、鳥取県酪農ヘルパー事業組合 |
| 雇用就農 | JA鳥取県中央会（1日農業バイト） ※県内18経営体（農業法人等）の雇用求人情報を掲示 |
| 移住・定住 | （公財）ふるさと鳥取県定住機構 |

(2) セミナーの開催：聴講者数 延べ70名以上

演題1「鳥取県で農業をはじめするには」 講師：県支援センター相談員

演題2「今鳥取のスイカがアツい！新規就農者が語るリアルな体験談」

講師：JA鳥取中央倉吉西瓜生産部会 川瀬 悠氏、同JA大栄西瓜組合協議会 秋山 祐子氏

3 就農相談の概要

(1) 相談者の概要：62名（事前予約：16名、当日参加：46名）、うちアンケート回答52名

| | |
|----------|--|
| 居住地 | 県内41（東部13、中部22、西部6）、県外11（島根、岡山、大阪、兵庫、三重、神奈川） |
| 職業 | 会社員25、公務員4、自営業3、アルバイト7、無職5、その他8 |
| 就農希望地域 | 東部6、中部10、西部5、未定31 |
| 就農希望時期 | 半年以内3、1年以内6、3年以内7、未定36 |
| 希望する就農形態 | 独立就農9、雇用8、未定35 |

(2) 相談者の感想等

| | |
|-----------------|--|
| 参加目的 | 就農検討26、情報収集12、求人情報7、セミナー4、1日農業バイト1 |
| 目的の達成 | 達成できた29、ややできた20、あまりできなかった1 |
| 興味・関心のあったブース・産地 | あった42（スイカ13、梨11、ブロッコリー5、白ねぎ4、トマト3、長芋3、倉吉メロン1、北条ブドウ1、大栄花1、芝1、農大1、デイワーク1、鳥取市3、北栄町2、大山町2、八頭町1）、なかった4、未回答4 ※複数回答あり |

<相談者の声>

「生産者と直接話ができて大変良かった。ぜひ続けて企画してほしい。」

「就農に関して、ひとつの市町村だけでなく、複数の話を聞いたのがよかった。」

「農業のイメージが変わった。」



産地・市町村相談ブースの様子



セミナーの様子

主要農産物の生産販売状況について

令和6年11月29日
生産振興課

本県の主要農産物の生産販売状況（11月17日現在、JA全農とっとり取扱分）について報告します。

1 園芸品目の生産販売状況

(1) 梨

ア 生産状況

- ・二十世紀、新甘泉とも開花は平年並み、実止まりも良好で肥大は順調に進んだが、梅雨明け後の猛暑、干ばつの影響で肥大が鈍り、収穫果実は平年並み～やや小玉であった。
- ・本年は全県的にカメムシによる被害が多く、1割程度の被害果がみられた。

イ 販売状況

- ・出荷数量は、二十世紀で栽培面積の減少及びカメムシ被害等により昨年を2割程度下回り、新甘泉は昨年並みとなった。
- ・単価は、市場全体の果実の入荷量が少なかった影響で、二十世紀、新甘泉ともに過去最高の高値となった。
- ・出荷数量が減少した二十世紀は販売金額が前年を下回ったが、数量を維持した新甘泉は高単価により前年を上回った。

【梨】栽培面積 R6年:343ha (R5:362ha)、生産者数 R6年:808戸 (R5:860戸)

| 品種 | 区分 | 面積 (ha) | 数量 (t) | 単価 (円/kg) | 販売金額 (百万円) |
|------|------|------------|-----------|--------------|---------------|
| 二十世紀 | R6年度 | 166 | 2,070 | 541 | 1,119 |
| | R5年度 | 184 | 2,675 | 489 | 1,308 |
| | 前年比 | 90% | 77% | 111% | 86% |
| 新甘泉 | R6年度 | 75 | 803 | 773 | 621 |
| | R5年度 | 72 | 792 | 702 | 556 |
| | 前年比 | 104% | 101% | 110% | 112% |

※全農とっとり調べ。数量は選果場進物、直販を除く。

(2) 柿

ア 生産状況

- ・本年は猛暑や干ばつの影響で生育・肥大が鈍化し出荷時期が遅れたが、大玉で高糖度の仕上がりとなった。
- ・本年はカメムシなど病害虫被害や生理障害等により、生産量は前年を大幅に下回った。
- ・「輝太郎」の主な減収要因として、生理障害である裂皮が全体の約37%、カメムシ被害が約15%、カラス等による鳥害が約13%、夜蛾被害が約12%、日焼け果等が約23%であった。

イ 販売状況

- ・本年の出荷数量は「輝太郎」が前年比49%、「西条」が同67%と大きく減少した。
- ・両品種とも販売単価は前年を上回ったものの、数量減により販売金額は前年を下回った。

【柿】面積 R6年:118ha (R5:121ha)、生産者数 R6年:480戸 (R5:505戸)

| 品種 | 区分 | 面積 (ha) | 数量 (t) | 単価 (円/kg) | 販売金額 (百万円) |
|-----|------|------------|-----------|--------------|---------------|
| 輝太郎 | R6年度 | 21.4 | 111 | 714 | 79 |
| | R5年度 | 20.7 | 225 | 640 | 144 |
| | 前年比 | 103% | 49% | 112% | 55% |
| 西条 | R6年度 | 46.6 | 208 | 445 | 92 |
| | R5年度 | 48.9 | 310 | 365 | 113 |
| | 前年比 | 95% | 67% | 122% | 82% |

※全農とっとり調べ。数量は選果場進物、直販を除く。

(3) 白ねぎ (夏ねぎ)

ア 生産状況

- ・初期生育は順調であったが、7月からの猛暑と干ばつが続いたことで生育が遅れ、細物傾向が続き、さらに7月9日の大雨により一部で根傷みによる欠株が発生したため、出荷量は減少した。

イ 販売状況

- ・単価は前年をやや下回り、出荷量、販売額は前年の8割となった。

| 区分 | 面積※ (ha) | 生産者戸数※ (戸) | 5月21日～9月30日までの販売実績 (累計) | | |
|------|-------------|---------------|-------------------------|-----------|------------|
| | | | 数量 (t) | 単価 (円/kg) | 販売金額 (百万円) |
| R6年度 | 321 | 832 | 1,055 | 410 | 432 |
| R5年度 | 330 | 865 | 1,296 | 427 | 553 |
| 前年比 | 97% | 96% | 81% | 96% | 78% |

※面積・生産者戸数は全作型の合計

2 主食用米の生産販売状況

(1) 主食用米の作付状況

- ・令和6年産の主食用米作付面積は11,505haで前年比175ha減となったが、「星空舞」の作付は75ha増加した。

(単位: ha)

| | 主食用米計 | 星空舞 | コシヒカリ | ひとめぼれ | きぬむすめ | その他 |
|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-----|
| R6年度 | 11,505 | 1,486 | 4,095 | 1,947 | 3,077 | 900 |
| R5年度 | 11,680 | 1,411 | 4,327 | 2,069 | 3,003 | 870 |
| R6-R5 | ▲175 | 75 | ▲232 | ▲122 | 74 | 30 |

注) 県再生協調べ (10月末時点)

(2) 令和6年産米の作柄概況

- ・11月19日公表の作柄概況は「作況指数99」となっており、令和6年産米の収穫量は平年並みの見込み。
- ・令和6年産米は、昨年に続き猛暑の影響を受け、高温障害(白未熟粒)の発生が多くなっている。また、地域によっては斑点米カメムシ類による被害が多く、格落ち要因となっている。10月末現在の農産物検査における県全体の1等米比率は、昨年と比較してやや高い。

(単位: %)

| 1等米比率 | 年産 | 星空舞 | コシヒカリ | ひとめぼれ | きぬむすめ | 全体 |
|-------|------|------|-------|-------|-------|------|
| | R6年産 | 64.5 | 44.2 | 53.2 | 64.4 | 51.1 |
| | R5年産 | 61.1 | 26.2 | 26.7 | 70.9 | 45.7 |

※令和5年産は令和6年3月末現在の公表値、令和6年産は10月末現在の公表値

(3) 令和6年産米概算金の状況

- ・令和6年産米のJA概算金は、資材費等の高騰による生産費コスト増を考慮し、前年と比べ60kgあたり5,500円程度の引上げとなった。(コシヒカリ1等: 17,000円/60kg)

3 県の対応状況

- ・果樹カメムシ類の被害軽減に効果的な網掛け施設の導入を次年作に向けて緊急的に支援するため、11月補正予算で対応する。
- ・今後も続くと考えられる猛暑や干ばつによる収量及び品質への影響、カメムシ等病害虫被害に対して、品目毎に品種転換や技術対策などを検討し、普及を図っていく。
- ・今後の秋冬野菜、晩生梨及び柿等について、農業団体との連携のもと、気象情報、市場価格の動向及び生産現場の状況等を見極めながら、生産販売対策を行っていく。
- ・主食用米については、JAグループ及び生産者代表、県等で構成する県農業再生協議会(11月28日開催)において、国が示す「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」及びJAグループの需要に応じた販売計画を勘案し、令和7年産の生産数量目標を60,104t(11,692ha)～62,925t(12,235ha)とし、主食用米の作付拡大を目指すこととした。

第15回中海会議の開催結果について

令和6年11月29日
総合統括課
水環境保全課
農地・水保全課
水産振興課
河川課

中海に関する諸問題を協議検討する第15回中海会議を、以下のとおり開催しました。

- 1 日時 令和6年11月18日（月）午前10時30分から正午まで
- 2 場所 米子ワシントンホテルプラザ
- 3 出席者 国土交通省中国地方整備局長、農林水産省中国四国農政局長、鳥取県知事、島根県知事、米子市長、境港市長、松江市長、安来市副市長 <オブザーバー>環境省中国四国地方環境事務所長、防衛省航空自衛隊美保基地司令

4 概要

(1) 中海及び境水道の堤防、護岸等の整備について

- 大橋川拡幅の前段階で湖岸堤を先行するという手順どおりに整備が進められていることが報告、確認された。
 - 令和6年4月1日から中海の水防警報発表の基準水位を変更したことが報告された。（水防団待機水位の0.05m引き上げなど）
- ⇒できるだけ前倒しでの湖岸堤整備、中海の潮位上昇による湖岸堤整備への影響の検証、樋門操作の省力化を求める意見があり、引き続き関係機関において取り組むこととされた。

(2) 中海の水質及び流動について

- 令和5年度の水質状況、中海の水質改善に向けた流入負荷・湖内対策に関する研究結果が報告された。
 - 中海の水質は、下水道整備などにより長期的には改善傾向にあり、多くの環境基準点で第7期湖沼水質保全計画で定めた水質目標値は達成しているものの、未だ環境基準の達成には至っていないため、令和6年度中に策定する第8期計画において、引き続き各種水質保全対策に取り組んでいくことが確認された。
- ⇒覆砂や浅場・藻場の造成による水質改善、水質浄化技術の調査研究、大橋川拡幅による宍道湖からの流入量の変化が水質に与える影響についてのモニタリングを求める意見があり、引き続き水質モニタリングの実施・結果の分析、調査研究を行うこととされた。

(3) 中海沿岸農地の排水不良について

- 農地嵩上げにより、排水不良に対する一定の効果が確認されたことについて報告された。
- 本年度をもってモデル地区ほ場の嵩上げが完了し、また、排水不良解消に向けた対策手法が概ね確立されたことなどを踏まえ、中海会議におけるWG（ワーキンググループ）としては一定の役割を終えた旨の総括が行われた。

(4) 中海の利活用について

- 漁業権が設定されたサルボウガイの養殖など、利活用（ワイズユース）の事例について報告された。
 - 各団体の主体的な取組が継続し、より広域な連携等の新たな取組も展開されていることを踏まえ、中海会議におけるWGとしては一定の役割を終えた旨の総括が行われた。
- ⇒引き続き取り組むべき課題については、中海会議以外の場も働かせて、関係機関で連携して取り組むこととされた。

(5) 中海会議の見直しについて

- (3)及び(4)の報告を踏まえ、両WGは廃止することとし、今後は湖岸堤等整備・水質問題に絞り込んでより重点的に協議検討を行う旨の中海会議設置要綱の改正案が事務局から提案され、了承された。

(参考) 中海会議とは

平成21年12月19日に締結された鳥取、島根両県知事の協定書に基づき、関係機関が共同して、未来に向かってより良い中海圏域を築くため、中海の水に関する諸問題を協議検討する場として、平成22年4月22日に設置した会議。

- ※個別課題の検討・調整を行うため、
- | | |
|------------------|---------------|
| ①中海湖岸堤等整備に係る調整会議 | ②中海の水質及び流動会議 |
| ③中海沿岸農地排水不良WG | ④中海の利活用に関するWG |
- 4つの部会等を設置。

国内における高病原性鳥インフルエンザの発生状況と本県の対策について

令和6年11月29日
家畜防疫課

国内で発生が継続している高病原性鳥インフルエンザの発生状況と本県の取組について報告します。

1 養鶏場における高病原性鳥インフルエンザ発生状況(R6. 11. 28 現在) <1道8県11例>

| | 発生地 | 種類 | 発生日 | 飼育数 | 防疫措置完了日* | 血清亜型 |
|----|---------|-----|-------|---------|----------|------|
| 1 | 北海道厚真町 | 肉用鶏 | 10/17 | 2.0万羽 | 10/20 | H5N1 |
| 2 | 千葉県香取市 | 採卵鶏 | 10/23 | 3.7万羽 | 10/24 | H5N1 |
| 3 | 新潟県上越市 | 採卵鶏 | 10/26 | 0.02万羽 | 10/26 | H5N1 |
| 4 | 島根県大田市 | 採卵鶏 | 10/31 | 40.2万羽 | 11/10 | H5N1 |
| 5 | 新潟県胎内市 | 採卵鶏 | 11/6 | 33.7万羽 | 11/12 | H5N1 |
| 6 | 香川県三豊市 | 採卵鶏 | 11/7 | 7.1万羽 | 11/12 | H5N1 |
| 7 | 宮城県石巻市 | 肉用鶏 | 11/10 | 17.1万羽 | 11/16 | H5N1 |
| 8 | 北海道旭川市 | 採卵鶏 | 11/12 | 4.4万羽 | 11/16 | H5N1 |
| 9 | 岐阜県本巣市 | 採卵鶏 | 11/19 | 1.5万羽 | 11/22 | H5N1 |
| 10 | 鹿児島県出水市 | 採卵鶏 | 11/20 | 11.3万羽 | 11/25 | H5N1 |
| 11 | 埼玉県行田市 | あひる | 11/25 | 0.3万羽 | 11/26 | H5N1 |
| | 計 | | | 121.3万羽 | | |

*防疫措置完了日：殺処分、死体の処理、汚染物品の処分、鶏舎の消毒が全て終了した日

2 野鳥等における高病原性鳥インフルエンザ発生状況(R6. 11. 27 現在) <1道11県47例>

北海道(17例)、岩手県(1例)、秋田県(2例)、福島県(3例)、新潟県(4例)、福井県(1例)、滋賀県(2例)、**鳥取県(2例)**、徳島県(1例)、福岡県(1例)、熊本県(1例)、鹿児島県(12例)

3 本県の養鶏場に対する対応状況

- ・家畜保健衛生所が9～10月にかけて県内全78養鶏農場を巡回し、養鶏農場の対策状況について点検を実施。消毒設備の点検や野鳥・小動物の侵入防止対策(防鳥ネットの修繕、鶏舎周囲の木の伐採、貯水槽へのネット設置等)を指導した。
- ・県内での発生に備え、各総合事務所単位で防疫演習を実施し(東部9/26、10/1、11/15、中部11/6・14・19、西部9/17・20、10/23)、自衛隊と防疫対応について調整した(10/22)。
- ・野鳥飛来対策として、鶏舎に近接(300m以内)するため池の管理者に水抜き等の協力を依頼した。
- ・10/4に北海道の野鳥での今シーズン初の高病原性鳥インフルエンザウイルス確認を受け、庁内連絡会議を開催し、県内養鶏場の予防対策や野鳥のサーベイランス強化を決定した。
- ・11/12までに全農場に消毒薬の消石灰1,618袋を緊急配布し、農場(鶏舎周囲及び農場外縁部)での消毒の徹底を指示した。
- ・国内の養鶏場での発生情報や県内野鳥糞便等でのウイルス確認時は、その都度、県内全養鶏農場に情報提供し、注意喚起を行っている。
- ・市町村、関係機関等と連携を図り、県のホームページ等を通じて、県民に対し風評被害防止のため、鶏卵・鶏肉を食べることで人に感染することはないことを説明している。

4 他県への支援

- ・10/31に高病原性鳥インフルエンザが発生した島根県大田市の農場の防疫作業を支援するため、中国地方5県における家畜防疫対策の広域連携に関する協定(H27.11.6締結)に基づき、同日から家畜防疫員4名を順次派遣するとともに、炭酸ガスボンベ75本、作業用手袋5,000枚を提供した。

5 今後の対応

- ・シーズンが終わる翌年5月まで毎月、農場が野生動物対策や消毒状況等を報告し、家畜保健衛生所が点検、指導を行い発生防止に努める。

第21回さかいみなと漁港・市場活性化協議会の開催結果について

令和6年11月29日
境港水産事務所

第21回さかいみなと漁港・市場活性化協議会（以下、「協議会」という。）が開催され、さかいみなと漁港・市場活性化ビジョン（以下、「活性化ビジョン」という。）の改訂について協議されましたので結果の概要を報告します。

1 開催概要

- (1) 日時 令和6年11月5日（火）午前10時30分から11時30分
- (2) 場所 境港水産物地方卸売市場2階大研修室

2 協議事項 さかいみなと漁港・市場活性化ビジョンの改訂について

（結果の概要）

- ・第20回協議会において、将来的に漁獲増が見込まれるマイワシの冷凍保管対策として境港地区の冷凍・冷蔵施設整備について協議し、境港地区の水産振興に係る中長期ビジョンの策定が提案された。
- ・一方、活性化ビジョンの策定から10年以上経過し、境漁港や市場をとりまく社会情勢は変化しているため、新たな中長期ビジョン策定ではなく、活性化ビジョンの達成度の確認等と合わせて、年度末を目処に活性化ビジョンの改訂作業に取り組むことが決定された。
- ・また、重点項目として、特に陸上処理能力の問題を「共同利用冷凍・冷蔵施設ワーキンググループ」で議論することとなった。

（委員の主な意見）

活性化ビジョンの改訂については多くの委員が肯定的であり、陸上処理能力の向上や污水处理施設の老朽化の問題に関する意見が聞かれた。

- ・マイワシの資源は増えているが、後背地の冷凍保管庫に余力がないため、水揚げ制限をしている。水産産業を成長産業化させていくために、冷凍保管庫の整備を強化し、陸上処理能力を向上させることは必須課題である。
- ・水産加工污水处理施設の老朽化と処理能力の低下も課題の一つ。マイワシはウロコが多く特に污水处理の負荷が高いため、水揚量が増加した時に、それに伴う汚水を処理しきれなくなる。
- ・マイワシの水揚げ増大に対応するために、水揚げに伴う汚水を污水处理施設に送る側溝等の整備や、汚泥処理方法の検討も必要になってくるのではないかと。
- ・境港の水揚げの約75%がアジ、サバ、イワシ等のまき網物。地元船をはじめ、県外船にも水揚げしてもらえるよう岸壁設備、冷凍庫、污水处理施設等の問題解決に向けた意見が出されたが、境港の水産産業が市の基幹産業ということだけではなく、県全体の経済に寄与しているということが示せば国や県民の理解を得ながら進められるのではないかと。

〈参考〉活性化ビジョンの改訂について

- ・さかいみなと漁港・市場活性化協議会では、「社会に信頼され、活力があり、親しまれる漁港・市場」を将来のあるべき姿とし、それを達成するために平成25年3月、「さかいみなと漁港・市場活性化ビジョン」を策定し、市場関係者全体で取組を進めてきたところである。
- ・これまで活性化ビジョンの取組項目については概ね対応してきたが、水産加工污水处理施設の老朽化、漁港の漁船係留岸壁の充実、陸上処理能力の向上といった課題が残されており、特にマイワシ資源回復に対応するため、冷凍・冷蔵施設の更新等、陸上処理能力の向上対策が急務となっている。
- ・活性化ビジョン策定以降の社会情勢の変化に合わせ、今後の課題と必要な方向性を議論し、活性化ビジョンの改訂を行う必要性が生じている。



「爛椀グランプリ 2024 in とっとり」の初開催について

令和6年11月29日
販路拡大・輸出促進課

「酒は純米、爛ならなおよし」の言葉を残した酒造指導者^{うえはらひろし}上原浩氏（鳥取市出身）を輩出した鳥取県から、日本酒の「爛」と「食」の魅力を広く発信する「爛椀グランプリ 2024 in とっとり」を11月20日（水）に米子コンベンションセンターにて初開催しましたので報告します。

1 日時・場所

日時：11月20日（水）11時～15時

場所：米子コンベンションセンター 多目的ホール・ホワイエ

2 内容

（1）爛酒セミナー

兵庫県で酒販店「酒うらら」を営む道前理緒氏を講師に迎え、爛付の説明に加えて試飲や実演、体験等を通して、来場者に爛酒の楽しさを伝えた。

（2）爛椀グランプリ「爛付の部」

京都、岡山、香川から出場した爛付師3名が、指定酒（太田酒造場（若桜町）「辨天娘 山麩 玉栄 R3BY 17番娘」）の爛付け技術を競った結果、王子爛氏（香川県）が金賞を受賞した。

（3）爛椀グランプリ「酒肴の部」

鳥取、石川、兵庫、広島、島根から8店舗が出店し、鳥取県産酒の爛酒と料理のマリアージュを競った。専門審査員、高発信層審査員と全国から公募した一般審査員で審査を行い、「能登半島のあごだしクリームチーズのホタルイカカナッペ」と藤井酒造（三朝町）「白狼古酒 1996年醸造」を出品した石川県の「輪島朝市.kitchen」が金賞を受賞した。

（4）爛談会（交流会）

出場者・審査員ら約60名による交流会を行い、情報交換等を行った。

<参加者の声>

- ・お酒と料理がお互いを引き立てていて、改めて鳥取のお酒の美味しさを感じた。
- ・若い方の参加が多く、広い世代に日本酒の魅力が伝わったのではないかと。
- ・非常に良い大会。もっと規模を大きくするなど次回も開催して欲しい。



知事による開会挨拶



爛酒セミナーの様子



「爛付の部」審査の様子



「酒肴の部」審査の様子



「酒肴の部」金賞の品



受賞者と専門審査員等

鳥取県産品の情報発信に係る取組について

令和6年11月29日
販路拡大・輸出促進課

鳥取県産品の知名度向上、ブランド化を図るため、次のとおり国内外において情報発信を行いましたので報告します。

1 国内での主な情報発信

(1) 大阪・関西万博プレイベント (FOODEX JAPAN in 関西) でのPR (9/18~20)

9月に開催された大阪・関西万博プレイベント (FOODEX JAPAN in 関西) に鳥取県ブースを出展し、県産品及び「食パラダイス鳥取県」を国内外のバイヤーへPRを行った。

場所 インテックス大阪 (大阪市住之江区)

出展 6事業者 (彩花園、(株) はりまや、大山乳業農業協同組合、(株) ヘイセイ、(株) 楽粹、(株) 角屋食品)



プレイベントの様子

(2) 国内有名シェフを対象とした県産食材勉強会 (9/19) ・産地視察 (11/17~18)

国内で高い評価を得ているシェ・イノを中心とした首都圏有名シェフに対し、食材勉強会を開催するとともに、県内に招聘し、食材の産地視察を行った。

① 食材勉強会

場所 シェ・イノ (東京・京橋)

食材 鳥取和牛、大山ルビー (豚)、鳥取地どりピヨ等

② 産地視察

食材 ねばりっこ、ジビエ、いちご (とっておき)、きのこ



産地視察 (ねばりっこ) の様子

2 国外での主な情報発信

(1) 台湾でのPR

① 全農とつとりと連携した鳥取県産梨試食プロモーション (9/7~8)

J A全農とつとり、県下3 J A、県で販促団を組織し、台北市・新光三越及び台中市・裕毛屋での試食プロモーションを実施した。併せて期間中、バス広告や大手メディアを活用し、県産梨の情報発信を行った。

② 台中市高級スーパー (裕毛屋) での鳥取物産展の実施 (11/1~3)

輝太郎柿、とつとり和牛、星空舞、アイスクリーム・菓子等加工品、日本酒等の販売・PRを行った。



バス広告による梨PR

(2) アメリカでのPR

○ロサンゼルス日系スーパーでの鳥取県産梨トッププロモーション (10/14)

ロサンゼルス日系大型スーパー「Tokyo Central」にて、平井知事、J A全農とつとりによる試食プロモーションを行った。



ロサンゼルスでのトッププロモーション

(3) フランスでのPR

○全国知事会と連携した「SIAL Paris 2024」でのPR (10/19~23)

梅津酒造及び千代むすび酒造が出展し、世界中の小売店・卸・飲食店に自社製品をPRするとともに、21日(月)に開催された全国知事会主催サイドイベントにおいて燗酒を提供し、「食パラダイス鳥取県」をPRした。



SIAL Paris 出展

(4) タイでのPR

○バンコクサイアム高島屋百貨店等での輝太郎柿プロモーション (10/19~30)

高級果実店「サンフレッシュ・タイランド」でPR販売を実施し、インフルエンサーによる情報発信等を行った。



輝太郎情報発信

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

令和6年11月29日
農地・水保全課

| 【新規分】 | | | | | | | |
|----------------------|--------------------------|-----------|------------------------|--|-----------------------------|------------|-----------------------|
| 主務課 | 工事名 | 工事場所 | 契約の相手方 | 契約金額 | 工期 | 契約年月日 | 入札方法 |
| 農地・水保全課 (東部農林事務所) | 広岡地区地域ため池(広岡溜池)改修工事(3工区) | 鳥取市 広岡 | 株式会社大谷組 代表取締役 大谷 廣秋 | 152,570,000円 (予定価格) 152,790,000円 | 令和6年10月17日 ～ 令和8年1月5日 | 令和6年10月17日 | 制限付 一般競争入札 (1社) |

| 【変更分】 | | | | | | | |
|-------------------------|----------|-------------------|-------------------------|---|-----------------------------|---------------------------|---|
| 主務課 | 工事名 | 工事場所 | 契約の相手方 | 契約金額 | 工期 | 契約年月日 | 変更理由 |
| 農地・水保全課 (中部総合事務所農林局) | 奥ため池改修工事 | 東伯郡 湯梨浜町 宮内 | 有限会社 前嶋組 代表取締役 前嶋 辰雄 | (当初契約額) 121,660,000円 | 令和5年9月4日 ～ 令和6年10月31日 | (当初契約年月日) 令和5年8月3日 | ・ため池改修に必要な粘性盛土材の確保が困難となったため、ため池堤体内に遮水性の高いシートを追加設置する必要が生じたことによる工事費の増額及び工期の延伸。 ・旧堤体を掘削したところ、転石が確認されたため、転石の破碎及び処分を実施する必要が生じたことによる工事費の増額及び工期の延伸。 |
| | | | | (第1回変更後契約額) 147,753,100円 (変更額) 26,093,100円 | 令和5年9月4日 ～ 令和6年12月27日 | (第1回変更契約年月日) 令和6年8月23日 | |
| | | | | (第2回変更後契約額) 150,021,300円 (変更額) 2,268,200円 | 令和5年9月4日 ～ 令和7年3月14日 | (第2回変更契約年月日) 令和6年11月7日 | |